

附属平野小・研究だより 第4号



平成 26 年 3 月 20 日
大阪教育大学附属平野小学校

『研究一色』から「One Hirano」へ

本校は、ここ数年の間、人事異動のサイクルが短期化し、中堅教員層の空洞化が起きています。また、教育ニーズの多様化に伴う教員の多忙化も例外ではなくなりつつあります。そのような現状の中で、研究校という使命を背負う本校は、この困難を打開するために、あえて研究活動のさらなる充実に向けて「研究一色」をスローガンにかかげ、3つの特設会議と、3つのプロジェクトを立ち上げました。

3つの特設会議とは、**研究戦略会議**（対象者：管理職と研究主任級）を毎月開催し、人材・時間・資金に関して敏速かつ戦略的に投機を進めてきました。**研究プロジェクト会議**（対象者：有志の中堅教員）を毎月開催し、3つのタイムリーな研究課題について、それぞれプロジェクトチームを結成し、慎重かつ先導的に研究を進めてきました。**基本研修会**（対象者：本校着任1年目の教員）を毎月開催し、本校の研究活動と特色ある教育活動について親睦を深めながら伝承し、堅実かつ投資的に研修を進めてきました。

3つのプロジェクトとは、A **共同研究プロジェクト**を結成し、平野地区の五校園の共同研究の推進役を務めました。B **Open-Café（授業実践講習会）プロジェクト**を結成し、公立学校の若手教員と教師をめざす学生を対象に、公開授業＋授業づくり講習＋カフェ（コーヒーなどを飲みながらの交流会）を催しました。C **ICT 授業実践プロジェクト**を結成し、タブレット端末・電子黒板などを活用した授業実践や関係企業との連携を進めてきました。

これらの取り組みを通して、本校の研究に対して意欲的に取り組み、本校の研究観を共有し、本校が先導的な研究を創造することができる組織づくりへと向かうのです。幸いにも、「研究一色」が研究に対して意欲的に取り組むことへとつながりつつあります。次は、教育観・学力観・指導観を含めた研究観の共有です。つまり、「One Hirano」に向けて進むのです。

副校長 橋本 隆公

研究教科紹介

附属平野小学校の各教科の研究内容についてお伝えします。各教科の研究テーマや、普段の授業においてどんなことを大切にしているかなどについてお伝えできればと思います。

社会

問題意識を自ら連続・発展させる子どもを育てる授業づくり

先日の授業研究発表会では、5年生「わたしたちの暮らしと情報」、6年生「わたしたちの暮らしと政治」の単元で公開授業を行いました。

5年生では、5月から授業で取り入れているタブレット端末を用いて情報機器を使う時のルールをグループでまとめ、自分たちの生活への態度化を図りました。「5年生の子どもたちがあんなに自由自在にタブレット端末を操っていてびっくりした」との驚きの声が多数寄せられました。



6年生では、基本的人権の視点から見た特定秘密保護法について、賛成・反対の立場に立って、根拠を持って考えました。6年生としてしっかりと考え、友だちの意見に耳を傾け、また自分の考えを練り直していきました。単元の展開において、どの場面で賛成・反対の議論を取り入れるのかについて、さまざまなご意見をいただきました。今後、政治に対して、自分たちはどうかかわっていけるのかについて、話し合っていきたいと考えています。



外国語活動



『自己肯定感を高める授業づくり』

本校外国語活動では、「英語を使って友だちと楽しくコミュニケーションをとることができる子ども」をめざす子ども像として活動を進めている。

Can Do List の活用

様々な単元のシチュエーションに応じた出来る度チェックリストのことで、その単元で身につけて欲しい表現を5級から家元まで教師側が作成したものである。この目に見える級が、もっと頑張ろうとする意欲につながったり、自分のできることを再認識したりすることにつながると考えた。

タブレット型端末の活用

自己紹介やプロモーションビデオをタブレット型端末で撮影し、自分のできることを表現した。また、4コマ漫画をジェスチャーのみで表現する姿を撮影し、相手に伝えるための表情の工夫を試みた。



デジタルポートフォリオとメッセージ機能の活用

学期ごとの映像を個人フォルダを作って保存することで、デジタルポートフォリオにもなり、自分の出来るようになったことが具体的、また客観的にみとることが出来ると考えた。そして、その授業での一番の写真や動画をメッセージ機能を使って教師の親機に送信させることで、ポートフォリオ作りや、評価の際にとっても便利である。

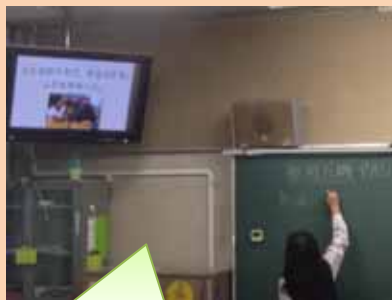
ICT研究

ICTを活用した学習活動

本校では、ICT活用についての研究を推進しています。現在児童用としてiPadを128台、教師用としてiPad miniを32台、また全教室に電子黒板を配備し、日々の教育実践や教員の校務用として活用しています。



社会科での調べ学習



総合的な学習での発表



電子黒板との連携

iTunesU に登録

また、本校は教育・学習向けのコンテンツ配信サービスであるiTunesUに登録しています。このiTunesUでは、世界の教育機関の研究内容が紹介されており、本校は日本の小学校として初めて登録をしました。

このサービスを利用し、本校の研究内容や実践の様子、各教科・領域の指導案など、今後様々なコンテンツを世界中に発信していく予定です。



教科掲示板

ここでは本校各教科の研究活動の現状について、
毎号で簡単にご紹介したいと思います。

国語科

「主体的な表現者を育む言語活動」と研究主題として、読みの学習から身につけてきた読みの力をまとめた『国語の知恵袋』を活かして、説明的文章・文学的文章を読み進めています。また、読みの観点を短冊にして教室に掲示したり、国語を学びたいと思えるような国語的空間を演出したりする空間的な支援の取り組みも続けています。

社会科

「問題意識を自ら連続・発展させる子どもを育てる授業」が研究主題です。出合った事象に抱いた疑問を解決していく場を設定するため6年では「特定秘密保護法」、5年では「SNSなどの情報の取り扱い」を扱い、自分たちが社会と関わっていく中で興味を抱けるようにしてきました。教科書の内容を更に発展させ、子どもが身近に感じ問題意識を持って学習が進められるように工夫をしています。

算数科

「子どもの算数的な気づきでつなぐ授業づくり」をテーマにして研究発表会をしました。2年は「はこの形」、3年は「表とグラフ」、4年は「分数」の単元で、子どもの「気づき」をどのようにして授業に活かすか、参会者の皆さんと話し合いました。
平成26年度も引き続き研究を深めていきます。

理科

「ものづくりを核とした単元構成」を研究仮説として、授業研究発表会では2本の授業を提案しました。3年生「じしゃくワールド」、5年生「電磁石おもちゃをつくろう」です。
今後も、理科における探究的なものづくりの活動を単元化する取り組みを続けたいと考えています。

生活科

「価値ある活動と伝え合い」が研究テーマです。
1年生ではダイナミックで適度なハードルのある活動を積み重ねることによる伝え合いの充実を、2年生では伝え合いの場でたくさんの気づきを仲間分けすることで気づきの質を高めることをねらって授業を提案しました。

音楽科

「郷土の伝統音楽」の教材開発を中心に研究を行っています。
本年度は「地車囃子」「大阪締め」「文楽」などの授業実践を行いました。子どもたちにとって、より身近で親しみのある伝統音楽を扱うことで、学習意欲が高まり、学びを創り続ける推進力となりました。

図画工作科

「子どもが主体的に発想・構想の能力を働かせる授業」をテーマにしています。4年生の「ジェットコースター」という題材では、切り方、つなぎ方、などを工夫して自分のイメージにあったジェットコースターを紙でつくります。平面の紙を立体に表す活動を通して、発想・構想を働かせていきます。

体育科

「学び合い活動を通して学びを深める子どもを育てる授業づくり」をテーマとして、授業研究会では、2年生と4年生の授業を行いました。2年生では、ベースボール型につながるボール蹴りゲームの教材開発に取り組み、その実践を、また、4年生ではICT機器を活用したポートボールの実践を発表しました。分科会でいただいたたくさんのご意見を、次年度へつなげていきたいと思っています。

道徳

本年度は、道徳の時間で道徳的实践力を高めることが「学びを創り続ける」ことを推し進めるとして、授業を構成してきました。2月の研究発表会では、「学びを表現することで道徳的实践力を高める」ことを研究仮説として、授業を提案しました。今後も実生活に生きる道徳授業を課題に取り組んでいきます。

総合的学習

「探求的な活動の展開を通じた自尊の生き方を考える子どもの育成」をテーマに、授業研究発表会では、「平野ハートフルプロジェクト」の「心のぬくもりを感じるための活動」を行いました。担当の班の児童が、「ケンカしそうなときどんな言い方をすれば良いか」についてパワーポイントなど使って説明し、学級全体で考えることで、自分や友だちを尊重する態度を高めてきました。

外国語活動

「学びを創り続ける中で自己肯定感を高める授業づくり」をテーマに、3学期は、1、2学期で培ってきた力を発揮するために、オリジナル昔話創りを行っています。ルーブリック評価も活用し、昔話を演じる際のポイントを自ら示したり、Can Do Listを活用し、基本の表現である「桃太郎」を暗唱したりして、活動への意欲が高まっています。



学級経営の視点としてQ-Uを活用



本校では学級経営の一つの視点として、Q-U（楽しい学校生活を送るためのアンケート）*を導入しました。Q-Uは「やる気のあるクラスをつくるためのアンケート」と「いごこちのよいクラスにするためのアンケート」から構成され、児童の実態や学級集団の状態を把握することができます。

このアンケートを各クラスで6月・1月に実施し、それぞれのクラスの実態把握をすることで、それをふまえた学級経営とつなげていきました。また7月には、Q-Uについての教員研修も行い、Q-Uのよりよい活用方法や、教員間の共通理解を図りました。

* 河村茂雄 1999 楽しい学校生活を送るアンケートQ-U 図書文化社

平野五校園 共同研究

附属幼稚園・附属平野小学校・附属平野中学校・附属高等学校平野校舎・附属特別支援学校によって構成される平野五校園では、共同研究として「ユニバーサルデザインにもとづいて「わかる力」「考える」「使える力」を育む保育・授業づくり」という主題をかがけて研究を推進しております。



平成25年11月9日（土）には、共同研究発表会が開催され、小学校においても、音楽・外国語活動・総合的学習（附属特別支援学校との交流）の授業が行われました。参観者の方々とともに「学びのユニバーサルデザイン」について学ぶことができました。

来年度の共同研究発表会は平成26年11月8日（土）に開催予定です。

🌸 平成25年度 授業研究発表会 🌸



平成26年2月15日（土）に本校授業研究発表会が開催されました。「学びを創り続ける子どもの育成（第1年次） 学びを創り続ける授業のあり方」という研究主題のもと、11教科（国語・社会・算数・理科・生活・音楽・図工・体育・道徳・総合的学習・外国語活動）計20本の研究授業が行われました。当日は、全国各地から数百名の方々が本校にお越しになり、本校の研究内容や授業実践について見ていただくことができました。

また、全体講演として慶應義塾大学の鹿毛雅治先生に来て頂き、「学びを創り続ける子どもを育む」という演題で御講演頂きました。

子どもの学習意欲を高めるというのはどういうことなのか、意欲的な姿はどのような場面に表れるのかなどについて、わかりやすくご教授いただきました。

来年度の授業研究発表会は、平成27年2月7日（土）に開催の予定となっております。

